

第6回会議での主なご意見（利用者の相談や意見・要望に応じる仕組みづくりについて）

※事：事業者、保護：保護者

発言者 ※		ご意見
事業者や事業者職員の保育および保護者支援のスキルアップ		
1	事	保育者のスキルアップについて、そもそも良い保育が子どもに対して元々は同じだと思うが、やり方が個々に違う中で何が一番良い保育かを共通なところに立ってスキルアップをしないと、私たちはこれというようになってしまう。共通理解にいくまでのスキルアップの研修会をしていくのか。子どもにとって一番良い保育がそもそも何かを考えずに、お互いの良いところだと思ふところに足すだけで終わってしまうのはもったいない。巡回指導などのフィードバックも、見た人の観点でフィードバックされても困る。共通理解を目指していかなければならないと思う。
2	事	子どもが頑張る力、目標に向かってやり遂げようとする、感情をコントロールする、我慢するなどという数値に表せない部分、大きな心でできるだけ子どもに寄り添ってコミュニケーションを取る保育を目指す心がけで保育に携わっており、目的は一緒だと思う。できるだけ子どもに寄り添い、その立場になって可能性のある能力を伸ばしてあげられたらと思う。
3	保護	スキルアップについて、発達障害という言葉が広まってきたにもかかわらず、小学校では発達障害だと思われる児童に対して、いまだにみんなと同じようにやらなければだめ、という先生がいて驚いた。保育園や幼稚園を見る限り、基本的には一人ひとりの子どもに向き合い、寄り添っていくことは統一されていて、その方向性は間違いないと感じている。幼児教育と小学校での違いがまだまだあるのだと感じた。発達障害など新たに言語化された課題に対してはスキルアップが必要だろう。
4	事	恐らくこの場にいる方々が関わっている園は、事業者側も保護者側も同じことを根っこに大事にしているだろう。ただ、私立保育園は89園ある中でかなりカラーの違いはあると思う。そこが、おざなりにされていることではもちろんないだろうが、保護者の便りを優先することが主になっていることがあるかもしれない。私は私立保育園だが、全部が見えないところに難しさを感じている。発達障害については研修が増え、学べることは増えているが、集団でまとまって動くことを大事にしている、日々の保育の中でそのようになっていることがあるのではないかと心配である。

5	保護	スキルアップの中で経験値やスキル不足の現場の職員がリアルタイムで相談できる窓口の設置について、そもそも現場の職員が相談できる窓口はあるのか。保育園は閉鎖的な環境という気がしている。一保育士が困ったときに相談できる場所があるのか教えていただきたい。
6	事	多分、私立保育園だと（そのような場は）ない。保育の考え方が違うので、まずはその考え方を知り合わないと相談できるかが分からない。リーダーはリーダー同士で集まって事例の討議をするなどの経験を積む中で、自分の引き出しを増やす機会が多い。発達障害など家庭に不安がある場合は、支援センターなどへ相談できるが、通常の保育の中での悩みを誰か周りの職員に聞くことはない。保育士同士のインターネットサイト上の話し合いの場はある。
7	事	支援センターなどは別として、日々の保育の中で困ったときに話し合えるのは、施設であれば最初は担任の先生、同じ仲間、同志だと思う。今日こどもがこういうことをしたがどう思うかを同じ職場の中でフランクに話せる状態でなければ、他の誰に相談してもそれは違う段階である。まずは、園長先生も含めて、今日こういう出来事があったとフランクに話せる状態にしておくことが大事である。その後、自分たちの中で処理しきれないときに相談する場所がどこにあるかを見つけておくことが大事なのではないか。私は基本的には一人で保育しているが、補助の方とフランクにこどものことを話せる関係を構築していくことがまず大事だと思う。障害、支援が必要なこどもの専門的なことは勉強しているところが少ないが、専門の方に聞きに行くことが必要だと思う。まずは、園の中で開かれた話し合いができる環境を整えていくことが大事である。
8	事	0～2歳の保育は、保育園の中での先生のチームワークがとても問われる。一人の保育者にスキルがあっても、チームワークがとれるかがとても大事だと日ごろ思っている。小規模の場合はマックス19人で、先生が、どのこどもにもかかわることがあるので、共通認識としてこどもの情報を共有している。特に、障害のあるこどもの場合は、注意の仕方や注意するときの顔など、どのような表情でこどもに接するかを共有している。この先生は良いと言ったが、この先生はだめと言ったということがないよう、机に上ったときにはこういう注意の仕方をしてくださいという形で担任を中心に情報共有していく。その中で解決できないことは職員会議で話し合い、プロフェッショナルの方に相談するなどするが、0～2歳に関してまず大事なことは、保育者間のチームワークだと思う。

保護者と事業者の相互理解、保護者間のコミュニケーションアップ・情報共有

9	保護	<p>保護者として、保護者と事業者の相互理解や保護者間のコミュニケーションはとても大切だと思う。保護者もこどもの育て方をどうすれば良いか悩んでいることがあると思う。できるだけ事業者と連携して、事業者の方から教えてもらう、事業者が誰かを呼んで教えてもらうなどして勉強できるようにする。また、事業者と親が個人的に話す機会を増やすことが重要だと思う。保護者間のコミュニケーションも当然重要だと思う。こうして区の中でこどもが増えて、働きやすいお母さん、お父さんが増え、行政としても継続的に取り組める、そんな、世界をつくれると良いと思う。ぜひとも、相互理解や情報共有をしてほしい。</p>
10	事	<p>相互理解について、私の保育園では入園の際に子育てで心配なことや困りごとがあればいつでも何でもご相談くださいと伝えている。年に2回個人面談を行い、こどもの発達状態、感情の動き、毎月の身体測定のことなど、心と体のことを事細かに聞いている。保護者に寄り添い、心を開いてコミュニケーションを取ることが大事だと思う。</p>

副会長からのご意見（要約）

会議の中で二つのテーマを検討してきたが、相談に応じる仕組みづくりの方向性を見ると、相談ができる仕組みづくりの前提となる園内での解決を支える仕組みのボリュームが大変大きい。議論にもあったように、相談に応じる仕組みづくりと見える化は、保護者も事業者も保育の質を上げるという目的を持っていることが前提にあり、両方に重ね合う形が含まれて出てきた。二つのテーマはありながら土台は一緒であるので、共通して整理した上でそれぞれのテーマの仕組みづくりに向けていけると良い。

スキルアップをする、保育の質を高めるために保育に携わる保育者のスキルアップがベースに必要であり、そのための色々な意見が出た。良い保育とは何かは、非常に重要な意見だと思う。練馬区の保育がそれぞれ独自性の良さはあったとしても、どこの保育をこどもが受けても基本となるベースの質が保証されるところを練馬区が目指していき、その上で独自性も大事にするところが、議論の中で出た重要な部分だと思う。そのことがしっかりとないと、見える化の中でどちらに向かって質が高いと評価されるかの不安が園側に出てくる。また、保護者も、何を基準に考えれば良いかが見えない中で右往左往することが出てくるだろう。相談に応じる仕組みづくりと見える化の具体的なものが会議で示されることが目的ではあると思うが、大事なところがたくさん検討されてきたことをまとめることの重要性もある。